

今年度 最終月の 園だよりとなりました。1年間 お読み頂きましてありがとうございました。ホームページ上の 園長コラムにて この巻頭言を掲載するようになり、卒園生達や ご家族より「懐かしく楽しみに読んでいます」とのお声を頂き、感謝の想いと共に 言葉を発信する責任を改めて思わされていますが、これまで以上に真摯に向き合い、祈りを込めて 綴りたいと思います。

さて、こここのところ世間では、大阪府の 学校法人による 国有地取得や小学校の認可について 連日 頻繁に報道され 騒がれていますが、本来の問題点よりも 現場の教育理念や 方針、指導に 注目が集められているような気がします。『教育勅語』『五箇条のご誓文』の暗唱、鼓笛隊による『軍艦マーチ』の合奏や『愛国行進曲』の合唱、運動会の選手宣誓には 総理大臣の名を連呼しなぜ尖閣諸島問題まで？と 首を傾げました。新設予定の小学校は、校長も教職員も 未定なのに校歌だけは すでに昭和の時代に流行した歌謡曲が 決定しているとのニュースにも 呆れました。VTRに収められている 幼稚園児達は 皆 屈託がなく 一生懸命で 元気いっぱいの様子でした。だからこそ、この映像を目にした時 私は 驚きより先に全身が凍りつくような怖ろしさと不安を 覚えました。子ども達は 意味を正しく理解し、これが良いと信じ、心から喜んでいるのだろうか 何も知らず、ただ言われるがまま大人に「させられている」のだとしたら、子どもは 犠牲者です。・・・教育とは いったい何なのでしょう。何故、人には教育が必要なのかと 考えさせられます。

“教育に 正解は 無い”この言葉の 重さ、深さを 今一度 ひしひしと感じ、噛み締めています。教育について 極端な言葉を用いれば、その内容や方向性は 教育者の人生観、価値観 次第です。子どもを 指示や命令で動かしたり、ただ従わせたり、意味を理解させないままに 教え込んだり また それとは逆に、何をやってもいいよと 野放図や 放任で 気ままにさせてしまったり・・・ どういう教育方法が良いのか、教育に関する情報はいつの時代もあふれていて 様々な教育論が 飛び交い、子どもにとっての最善は何なのかと、戸惑い 悩み 考えさせられることも多いですが 子ども達への教育が、大人達の自己満足や 利益に変えられるようなことがあってはなりません。教育とは、子ども達ひとりひとりが それぞれに 神様から与えられている可能性を「見出すこと」それを「引き出すこと」であり、人として愛しみ、尊重し、生きる力を「はぐくむこと」です。保育園も 幼稚園も 学校も 教育の現場は、子どもも 大人も 皆、人として 真剣に生き合う場所であると 私は 思っています。特に、人の生涯において 最も大切な 乳幼児期の教育現場である この つのぶえ保育園では、何よりも 目に見えないものにこそ 想いを馳せる尊さ、人としての “心”の在り方、心を使う教育に対する確信と使命を 今回の報道を通して一層思わされました。教育の現場において、自由の本質を 履き違えてとらえてしまうことほど 怖いものはありません。子どもと大人が向き合うだけでなく、大人から子どもへの発信ばかりの一方通行の関係ではなく、子どもと大人（教育者）が 互いに 出会えたことを喜び合い、ともに手を繋ぎ、天を仰ぎながら 神様に祈り合い、同じ方向を見つめながら、日々 歩む中で 人間としての関係を築き合うことを 感謝できること、さらに 神様の存在を通して、愛すること、信じること、赦すことを 学び合い 成長し合える場であり、教育現場において子どもが主役であり 大人が寄り添うことは 必然です。

今年も、間もなく今月の25日(土)に、いるか組の 愛する10名の子ども達が 卒園します。ちょうど6年前の3月11日に 東日本大震災が起り、日本中は 大きな衝撃と悲しみと不安の 暗闇に震え続けていました。その中で大切に大切に育てられてきた10人の小さな貴い命たちは この6年間ずっと ご家族や 周りの方々に 明るく温かな希望の光を注ぎ続けてきてくれました。神様の愛に守られ、皆に愛されて、いつのまにか こんなにも たくましく たのもしく 心優しく 立派に成長した ひとりひとりの姿を見つめていると 感無量の想いで 今から涙が溢れてきます。これからも 世の中の光となり、人々の生きる力を与える存在として 祝福されることでしょ う いつも皆と一緒に歩き続け 乗り越えてきた毎日、その笑顔も涙もすべてを それぞれの糧にして、どんな時も ともにいてくださるイエスさまを信じて、大きく羽ばたいてほしいと願っています。ひとりひとりの歩みの上に、神様のお守りと お導きがありますよう 心から お祈りしています。

「心を尽くして 主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな。あなたの行く所どこにおいても 主を認めよ。

そうすれば、主は あなたの道を まっすぐにされる。(箴言 3:5-6)

(石田 記)